

3つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小原本陣の森
第1日曜日



知足の森
第1日曜日



相模湖・嵐山の森
第3日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.475-476

体験学校、嵐山の頂上にて

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

森林整備では、神奈川県立深沢高等学校のインターンシップ生を9名受入れ、林業への関心を持ってもらうため、理論と実践を実施した。午前中は樹木や草花の説明を行いながら嵐山登山を行った。サッカー部の学生は体力を余す態度であるが、そうでない学生は苦勞していたが流石は高校生で体力があり余裕で嵐山に登頂、山頂で景色を見て全体写真に収まり、下山は東海道自然歩道沿いに下り丁度12:00に嵐山基地に到着した。昼食の後はスギの間伐体験を実施した。高校生は二班に分かれ手鋸で伐採作業を行い、中学生は慣れた手つきで間伐作業を行った。杉の傾きで思った方向とは異なる側に伐倒する事態も起こったが、林業の大変さを身に染みて感じており、また森林活動に個人で参加したいとする高校生もいた。猛暑が続く今年の夏の中では、両日とも比較的凌ぎやすい日和であったことに感謝。

今年もインターンシップの受入れ依頼があり、今年は9名（女性2名）という

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・。



状況をお聞きし、当日、泊まり無しの日帰り実習とした。昨年同様9：30JR相模湖駅集合だが、女性2名が遅刻と言う事態になったので、リーダーを残し、残り6名で先に山に入り、樹木や草花の説明、及び森林整備の必要性などの説明を行った。

全員が揃い、嵐山の山頂目指して山を歩きながら草花の説明をした。スニーカーなどを履いてきているが山道には岩場があり結構体力を消耗された様子で口数も少なくなったところで山頂に到着した。約30分位の登山であるが慣れないと大変である。でもさすがは高校生体力の回復が早く、またサッカー部の部活で鍛えているせいもあり山頂では元気にはしゃいでいた。全員で記念写真を撮り、下山するが、登りとは違う東海道自然歩道に指定されている山道を下った。実は山は下りの方がきつい。女性2人が遅れるが皆の励ましで12時に計画通り登山基地に戻ることが出来た。昼食は汁物を用意させて頂き各自持参の昼食をとった。

私達が畑で栽培している夏野菜があったので、少しづつお裾分けした。食事後は、二班に分かれて間伐実習を行った。胸高直径20cm程度のスギをノコギリを使って間伐するのだが思った以上に時間を要した。特に1本は木末が二股に分かれていたため、切り進めていくうちに樹木の重心が伐採方向とは反対側に比重が掛かっていることが解かったので倒木方向を180度反対に決め、ロープで極めて狭い場所を目掛けて倒すことになった。全員の協力でロープを引っ張ってもらいそこしかない方向にうまく倒すことができ大歓声が上がった枝払いや玉切りはできなかったが、15時に作業を終了し二回目のインターンシップは終了した。

この二年のインターンシップを通じて思うことは、山にそもそも興味のない学生にとっては苦痛以外なものもない。興味を持って参加した学生さん達にとってはもう少しという感想を持つことだろう。

結論として参加者の意識格差が大きすぎると、作業選択に困るので、次回インターンシップを受ける時には、事前に学校側と調整を行う必要があるかもしれない。

各自の志望動機は林業や山に興味があると書かれている学生が多い。中には木工が好きだと書かれた方もいる。

昨年から見ても、4~5名の学生は林業に強い意識をもっており、林業関係に進むのではないかと感じさせる人もいることは確かであり、林業へのインターンシップ実習は今後も必要な体験学習であると思う。この様なインターンシップを導入している県立高校は希だと思いが採用された深沢高等学校の穴戸校長に敬意を払います。

今年には新任の校長が就任されたが、今後も林業教育や森林実習を是非取り入れたインターンシップを期待します。(報告：小林 照夫)

嵐山では、前回行った倉庫整理の際に出たゴミを片付けるのと、中学生が間伐した木の処理を手伝いました。倒木処理を行ったあと、木材にワイヤーを巻き付けて山から降ろせる機械を使用し効率的に引き下ろしました。本当に楽で今後も積極的に利用していきたい代物でした。今回の定例活動はどちらも一人での参加でした。今後はイベント準備や山での活動を教えるためにもっとメンバー、特に一年生に参加してもらえよう頑張っていきます。

(報告：望月 健一)

この日は体験学校の開催で高校生の間伐作業の支援をすることになった。午後から作業ということだったので、午前中は望月の森での調査の続きを行なった。来年3月の森林学会で発表することになりそうなのだが、データ上どうしても整合性が取れない木があり、データ通りの木であることもあるのだが、まずはその木を探そうとなった。10m四方の調査区の中に他と比べて突出して大きな木があり、この木があるかないかで平均や統計を取ると大きく変わってしまうので、現地で、ということである。3年間植樹したうちの何



年目かはわかっていたので、木はすぐに見つかった。そのトチノキはデータ通り、大きく枝を伸ばしていた。これならそのままデータの解釈ができそうである。また、このことから今回の発表のミソになりそうな枝が張れるまで伸ばすのではないかと説にも大きく関わってきそうである。午後からは学芸大小金井中の生徒も合流し、間伐作業。計3本のうち1本を何とか倒し、1本支援し、無事に作業を終えた。残り少なくなってきた嵐山の森の活動だが、データや成果をまとめ、感謝を持って活動を終わりたい。（報告：宮村連理）

【定例活動報告】小原本陣の森

今日は秋晴れの良い天気めぐまれた。地主になる小林幸治氏の自宅を訪問し新基地を貸借するうえでの詳細をきめた。

11月11日さがみはら市民活動フェスタ2018に緑のダムとして初めて参加するに当たり、食ブースを運営することになった。中身は、本陣焼きを学生たちで復興させたい！という意気込みを説明し、本陣焼きを今年までで終わりにしたいと、今まで頑張ってきた奥様にお越し頂き詳細の詰めを話をすることができた。

今日は、横浜市立鴨志田小学校から金井先生と研修者のお2人が参加された。緑のダムの活動は有名で自分たちも研究したいということで自主的に参加された。私は、金井先生達を嵐山の基地内をご案内した。その後、小原の新基地に戻り、全員で大々的に整備を行った結果、今後設置予定の道具小屋のイメージもできこれからの構想を話し合うことができた。広場から相模湖が眺望できる場所にあり、そこにベンチとテーブルを設置、周りにバラを配置し散歩をする住人の方々が小休止できるスペースを作りたいなど周辺を含めたトータルコーディネートまで話は膨らんだ。地域と若者と少しのよそ者が作るこれからの地方の発展形態モデルを期待する。



小林 照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

今回は夏休みと新学期の狭間で参加者告知がうまくいかなかったこともあり、3名での活動となった。大学生2名、うち1名は中高6年森に通い、現在は北海道大学に通っている北岡くん。在学時の「肩書き」は主任。そんな3人でやるなら、と知足の森の最後の秘境、西側の境界線調査である。ネットワークにつないだiPadとハンディGPS、地図をもち沢沿いを上がるもの早くも状況がわからなくなる。とりあえずぼく尾根を目指していると作業道らしきものに遭遇。このままうまいこと行くか、と作業道を歩くものの明らかに明後日の方向へ、しかも2方向に分かれてしまう。ただの作業道で何かのキーになるものではないと判断し、そこから一気に尾根を目指すことに。それが間違いのもとだったのか、とんでもない斜面で、登りきる頃にはヘトヘトに。このメンバーでしかできない活動となった。尾根に着いてからはほぼデータ通りに歩けた。問題は当初目指していた境界線。以前失敗したポイントの一つ手前を探していると、小さな黄色の杭が2本あることを見つける。まるでゲートのようである。GPSのデータもほぼここを指している。航空写真だとここで植生が違っており、地面からも明らかに植えられた時期が違うことがわかる。これを境に下山することを決意。見事に黄色の杭が打ち続けられている。西側の境界線に違いない。そのままお墓の裏に出る。間違いなさそうである。問題は、下山後のデータチェックで、もとの地図と最大30m近くずれている部分があることである。南側斜面で、かつ高精度の人工衛星のみちびきの位置も悪くない。電波も拾えていたはずである。地図そのものの精度にも問題があるのかもしれないのでこれからの検討事項にしたい。

宮村 連理（本会、副理事長）



桜井尚武の 森のコラム

「互生の葉のカツラ (*Cercidiphyllum japonicum*)」



図1. カツラの落葉20181005
南千住の街路樹の下



図2. カツラの葉
20070715嵐山



図3. 駐車場のカツラ
20101121桂北公民館



図4. 互生のカツラ葉序
20101121桂北公民館

今月、10月5日の小雨降る朝、涼しくて爽やかな空気に馥郁（ふくいく）とした香気が流れてきました。カツラの落ち葉の香りです（図1）。「カツラの香りって、どんな香りですか？」そんな質問を受けたことを思い出しました。落ち葉が腐葉土になる前の香り、焼き芋を作っている釜からの香り、いや、香ばしいカルメラのような香りといえましょうか。もうそんな季節になったのだなあと、近づく晩秋を感じる際の香りです。この香りの成分はmaltolというキャラメルに含まれる成分と同じなのだそう。なお、「カツラ」という名は「香り出ずる（かざる）」に由来するという説がありますが、中国で「桂」というとモクセイの仲間(*Osmanthus*属)が主だということです。また、シナモンを桂皮と書きますが香りの高いこの桂皮はクスノキ科の植物です。「桂」にまつわる話は色々ありそうです。

それはともかく、カツラは日本各地の山地渓流域によく見られます。丸い葉は対生で、中央の主脈の両脇に2本づつ明瞭な側脈があるのが特徴です（図2）。樹皮は明褐色で縦に何本もの細く筋状に走る外皮が目立ちます。

相模湖駅の裏にある桂北公民館の駐車場にあるカツラ（図3）に対生になっていない葉を見つけました。どう見ても互生です（図4）。図3にみるように最近目通り位置で幹が切られた跡に萌芽したものでした。萌芽枝は早急に新しい葉を展開させなければいけないので、対生に葉を並べるといった種のキマリに従わないことも許されるのだと、今のところ納得しています。

桜井 尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】

地球環境部

先月号に続き、環境教育学会に参加した生徒の感想を紹介します。

私は今回の発表は初めての参加でした。私達が普段活動していることについて発表する数少ない場であり、多少の緊張はありました。聞きに来て下さった方に説明をするのは私が思っていた以上に難しいことではありましたが、だんだんと自分

がしている活動に自信が持てるようになりました。

今回のことで私たちの活動について改めて考えるきっかけとなったと思います。説明して、質問されると、答えられない部分もあったためです。なので、まだまだ不足している部分があるのだと気が付きました。そのような部分は、これからきちんと補っていきたいです。今回の発表はとても良い経験となりました。今後の活動に活かしていきたいです。

内田 晶（東京学芸大学附属小金井中学2年）

今回、環境教育メッセに参加してみて本当にたくさんを学んだ。「森に行く」というきっかけがなかったら、きっとこんな経験はできていなかっただろう。

私たちは森の活動の中で行った植生調査についてのポスターを展示した。植生調査は森の変化が具体的な数値で分かる。植物についてはまだまだ知らない事が多いが、今回の植生調査については何を質問されても答えられる気だった。しかし現実はそう甘くなく、全く想定していないような質問が次々と飛んできた。自分の詰めの甘さを痛感した。また「環境」というものは普通に生活していたら関わりが薄いものなので、今回の参加で環境に興味を持っている人、関わっている人がこんなにたくさんいる事を知り、驚いた。また、そんな方々に自分たちの行ってきた活動に興味を持ってもらえるのは本当に嬉しいことだった。この経験をこれからはいかしていきたい。

山本 理生（東京学芸大学附属小金井中学2年）

【グッドライフアワードフェスティバルに参加】

今回のグッドライフアワードの受賞者の集まりに参加して様々な人たちとの繋がりを持つことが私にとって良い経験になりました。企業の人だけでなく文部科学省や参議院の職員の方といった国家公務員の人たちともお話しました。普段生活している中で高校生がそういった方達との会話



をする機会は滅多にありません。普通の高校生が経験できないような名刺交換や様々な業種の方達との会話は多くの視点から物事を考えるきっかけとなり、勉強になりました。

また、参加者の活動の発表も聞いていて勉強になりました。高校生だけでなく小学生が参加している活動もあり、こんなにも幅広い世代が熱心に活動していることは知りませんでした。徳島から参加している高校生は環境だけでなく健康、地域の活性化にも視点をあて、果実を特産品にしてみかん産地に代わる温暖化に負けない新しい産地づくりを目指して活動しているようです。環境問題といっても幅広い取り組みが行われており、中学生の時から緑のダムにしか参加したことがない私は狭い視点でしか物事を見ていなかったことを実感しました。初めはよく分からないまま参加しましたが自分の視野を広げるいい機会となりました。

小笠原 えり（東京都立西高校3年）

【若者の森づくり】 Forest Nova

Forest Nova☆近況報告です。Forest Nova☆はインカレサークルとして麻布大学の生徒を中心に活動してきましたが先日、麻布大学で正式なサークルとなることに決まりました。サークル化した理由は、これまではインカレサークルとしてイベント参加等で一般の方に自然環境に対する意識向上を目指してきましたが今後活動を続けていくためには活動の中心となる麻布大学内の生徒の参加数を増やすことが重要と考えたからです。大学内には環境学部、獣医学部などがあり自然や動物に興味を持ったひとが大勢いるだろうと思います。そうした人たちが活動に興味をもって参加するようになればより良い活動ができるでしょう。サークル化には一年以上の時間がかかりメンバーをやきもきさせてしまいましたが無事にサークル化を果たし安心です。大学でのサークル名は「森ノバ」となりました。緑のダムの山での活動にも引き続き参加いたしますので今後ともよろしくお願いたします。今年はサークル化などでごたついていたため一年生と関わる時間がとれず、一年生はあまり参加できなかったようです。一年生がこれから活動に参加しやすいようにしていきたいと思います。大勢の方達のおかげで続けてこられた活動なので今後も続けていけるように頑張っていきます。

五味 輝史（Forest Nova）

【緑のダムの20年を顧みて】

FSC認証林に向けて、森林活動の第一歩

活動を決心してその間、行政(町役場・県津久井支所)、森林組合等への了解取り・活動地の境界線確認・会員募集・道具揃え他、何かと追われて第一回目の定例活動が1998年11月20日(第三日曜日)であった。

当時、一般の森林への関心は殆ど無く第一回の活動は、貝沢林道沿い下に様々な不法廃棄物が投げ込まれておりこれを引き上げ纏めて町役場に搬出方をお願いした。12月初旬見回り帰路、駅前カドや食堂に立ち寄って軽食を取っていたら隣のテーブルの山帰りらしきグループの数人の話声が聞こえた。

「最近、グループで来ている奴らは飛んでもない奴らだ。ゴミは捨てて行くし、またたび酒用に保存していた木は伐り取りやがるしょ〜」

「あの〜、済みません。私たちの事でしょうか」

「何にィ、この野郎、お前たちが、おい、表に出る」と赤いバンダナを巻いた屈強の男が立ち上がって来た。

「待て待て、話を聞いてからにしろ」とリーダーらしき年配者が止めた。その後、永年、NPO会員になってくれた与瀬の曾根さんであった。ゴミ搬出が暫く放置されていたらしいのだが、ぶん殴られる事もなく収まった。あれやこれやと行き違いも多発したがFSC三原則の1、森林整備の始まりであった。

曾根さんはボランティアでご夫妻と数人の同志と陣馬山・堂所山・景信山・城山・大垂水峠等の神奈川県森林管理巡回員であった。そこで彼らがどのような活動をしているか次の日曜日に同行させて頂くことにした。

JR藤野駅から県道522号線をバス栃谷入口で下車し陣馬山頂まで登り尾根伝いに城山に向かうトレッキングコースを明王峠から貝沢林道を下るコースを辿った。

曾根さんグループは道々、コースの補修や空缶・弁当屑を拾い集めるなどの森林美観の維持活動をするグループであった。都会からのハイカーのゴミポイ捨てが至る所に見かけられマナーの悪さが際立っていた。当会がそのような者と見られるのは当然であった。

そこで、当会の活動を相模湖町の人々に知ってもらう為に相模湖町で行われる祭り・行事にも積極的に参加する事とした。FSC三原則の2、社会への広報活動でもある。

石村黄仁(本会、顧問)

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

発行人：NPO緑のダム北相模

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

パタゴニア環境助成

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社)さがみ湖森・モノづくり研究所、ウッドバンク(株)

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第3日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。